

華やかな長野オリンピックの裏側

テレビ、新聞などで華やかに報道されている長野冬季オリンピックは着々と準備が進み、すでに最終段階に入っている。今回の長野オリンピックのキャッチフレーズは、「地球時代の美しいオリンピック」とされているが、実際に進められているのは、さまざまな思わしくない問題を抱えているということを知る必要があると考えた。「オリンピックを招く施設も環境もまったく丸裸の状態で開催したことがそもそも間違っていた。」(1)開催地決定に、オリンピックへの観光客の増加による、経済的効果や、オリンピックという大舞台が地元で開催されるという精神的な面などで一喜一憂したものの、招致後は、さまざまな形で、負担がかかり市の財政も借金を抱え、ゼネコン問題により施設建設も遅れた。このような問題により招致以前からオリンピック反対運動が起こっていたが、招致後ますます強くなった。なぜ、五輪を招く施設・環境がまったく準備されていないような長野に開催地が決定されたのだろうか。長野県は過去2回五輪への立候補を試みたが、失敗に終わった。そして昭和30年にJOC総会で国内候補都市に決定され、平成3年6月15日、長野県は五輪への熱意を心を込めて訴え続けた結果、イギリス・バーギンガムでのIOC総会の投票により開催地を獲得した。しかし、その裏側では、巨額の招致活動費を投じ、IOC委員に招待攻撃をかけ、施設・環境が整っていないのを金でねじ伏せ、また、IOC委員への買収工作もウワサされるほど強引な招致活動により「金で呼んだオリンピック」(2)とも言われている。

- (1) 長野市議会議員 今井寿一郎氏の言葉 谷口源太郎 現代 1994・4 P296
(2) 谷口源太郎 現代 1994・4 P296

今回の長野五輪では、放映権についても疑問が出てくる。放映権料が今までの五輪に比べ、非常に高額だったということだ。調べて見ると、アメリカのテレビ会社CBS・NBC・ABC・フォックスが関心を持っているとされていたが、NBC・ABC・フォックスは入札に参加しなかった。ではなぜ無競争なのに3億7千5百万ドルという高額になったのか。CBSは、スポーツ番組の放映権を失っていた。それゆえ、長野五輪の放映権を得るために、どんな高額でもものむつもりでいた。結果、3億7千5百万ドルという高額になった。もう一つは、大会の4年前という早い段階での契約である。これについても調べてみると、IOCが「リレハンメル大会のCBSの視聴率は低くなるだろう。その結果が出てからでは、高い放映権料は望めない。それゆえ大会前に、交渉した方が有利だ」(3)とのことだった。危機的な財政状態のNAOCは予想以上の高額契約に大喜びしたが、現在では契約時より円高が進み、危機的な経済状態は変わらない。これから、NAOCは商品もできていないような状態でのこのような契約をすませているのは無責任である。

- (3) 谷口源太郎 現代 1944・4 P304

長野五輪の運営費は、88年時点で400億円と試算されていたが、2年後には、約2倍、さらに94年には約3倍の1000億円を越すといわれていた。(4)なぜこれほそまでに運営費が必要なのか？その使いみちは、一切明らかにされていない。そこで、五輪反対派の人々が、長野地裁に会計帳簿の調査を要請したが、県・長野市・IOC・NAOCはともに「帳簿はない」と回答した。県や市が中心となって招致活動をしてきた以上巨額の運営費の行き先が不明なのは許されないことであり、不自然である。

- (4) 週間ダイヤモンド 川相俊英 1995・12・2 P95

競技関連施設の投資額は、招致決定前と後では約300億円増の1480億円にもなっている。国庫補助は、2分の1にすぎず、主要施設建造費その他はすべて起債による借金と補助金によるものである。五輪が終わるころに償還のピークになりその額は年200億円から250億円になると推定されている。この借金のつけが市民にまわってくることはさげられないだろう。

長野五輪は環境面でも大きな問題を抱えている。五輪道路を造るためにダムを造るのだ。なぜ道路を作るのにダム建設が必要なのか。このダム建設がスタートしたのは20年も前のことだが、具体化への動きはダム建設差し止め運動によりストップしていた。その運動の主な理由は(5)、ダム本体に向かい断層がある・ダム本体の一部が地滑り防止地区に指定されている。というものである。それではなぜダム建設が必要なのか。五輪競技会場予定地である飯網高原への道路を新設しなければならない。そこで県はダムの付け替え道路を五輪道路に使うことを考えた。ダム建設があるのだから、許認可、調査の時間も省け、工事費もダム建設として国が出してくれるのである。本来ならこのダムは、地元民の反対を押しきり造る必要はないのに招致活動費などによる赤字を埋めるためにN A O Cは道路建造費を国からの金で済まそうとした。こうなると血税の無駄使いといわざるをえない。財政面にも環境面にも大きな問題であることは間違いない。

(5) 谷口源太郎 現代 1994・4 P305

長野五輪招致の主体はJOC理事の堤氏と吉村長野県知事であった。この招致は堤氏にとって多大なメリットをもたらすものだった。たとえば堤氏のホテル・スキー・スケートのレジャー事業に五輪用に建設される北陸新幹線は多大な利益をもたらす。さらに堤氏をバックアップする形で吉村知事は、交通網の建設で地域振興を強調したこの二人の主導で招致が進められた以上一連の問題に対しての責任を取る覚悟はできているのだろうか。

谷口源太郎 現代 1994・4

長野オリンピックに見る日本環境報告 本多勝一 ASAHIJOURNAL 1989・11・17

オリンピックの政治性の背景と課題 藤原健固 中京大学体育学論業 1985

週間ダイヤモンド 1995・12・2